

不登校児童生徒の支援と教育相談

こども教育宝仙大学
教授 石川 悦子



独立行政法人教職員支援機構

目次

- 1 不登校に対する考え方
- 2 不登校への支援（校外・校内）
～多様な教育機会の確保～
- 3 アセスメントとチームによる教育相談の展開
- 4 まとめ

1. 不登校に対する考え方

(定義) 「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により登校しない、あるいはしたくともできない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」

1932年「登校拒否(症)」(英国)

1941年「学校恐怖症」(米国)

1950年～日本で「登校拒否」

(年間50日以上欠席)が増加

1998年「登校拒否」➡「不登校」

(年間30日以上欠席)

1. 不登校に対する考え方（国の指針）

- 1983年「生徒の健全育成をめぐる諸問題
－登校拒否問題を中心に－」手引
- 1992年「誰にでも起こり得る」
「自立を促すことが重要」
- 2003年「見守るだけではなく働きかけが
重要」アセスメントの重要性、
民間施設との連携も。
- 2016年「不登校は問題行動ではない」
「再登校を目標にするのではなく、
多様な教育機会を確保すべき」
※「教育機会確保法」公示

2. 不登校への支援

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）」2017年施行

- 全ての児童生徒が安心して教育を受けられる学校環境の確保
- 学校以外でも様々な学び場を選択できる
- 社会的自立を目指す
- 国、地方公共団体と民間団体が協力し、児童生徒や親へ必要な情報を提供する

教育支援センター、不登校特例校
夜間中学、フリースクール
教育センター（教育相談室）
医療機関、児童相談所等

2. 不登校への支援

- 1995年 スクールカウンセラー活用調査
研究委託事業（全国154校）
➡事業補助、全国の小中学校
（27,000校）へ配置拡大
- 1997年 校内型不登校
「保健室登校」「別室登校」
- 2008年 スクールソーシャルワーカーの
活用開始

学校教育支援員、登校支援員
ICTを活用した学習支援
「チーム学校」

2. 不登校への支援（参考資料）

令和2年度不登校児童生徒の実態調査より
（文部科学省）

学校を休んでいる間の気持ち(複数回答)

「ほっとした・楽な気持ちだった」

（小学生69.7%，中学生69.2%）

「勉強の遅れに対する不安があった」

（小学生63.8%，中学生74.2%）

「進路・進学に対する不安があった」

（小学生47.0%，中学生69.2%）

「学校の同級生がどう思っているか不安
だった」（小学生64.4%，中学生
71.6%） ➡学習支援の必要性

3. アセスメントとチームによる教育相談の展開

不登校の子供たちの声から

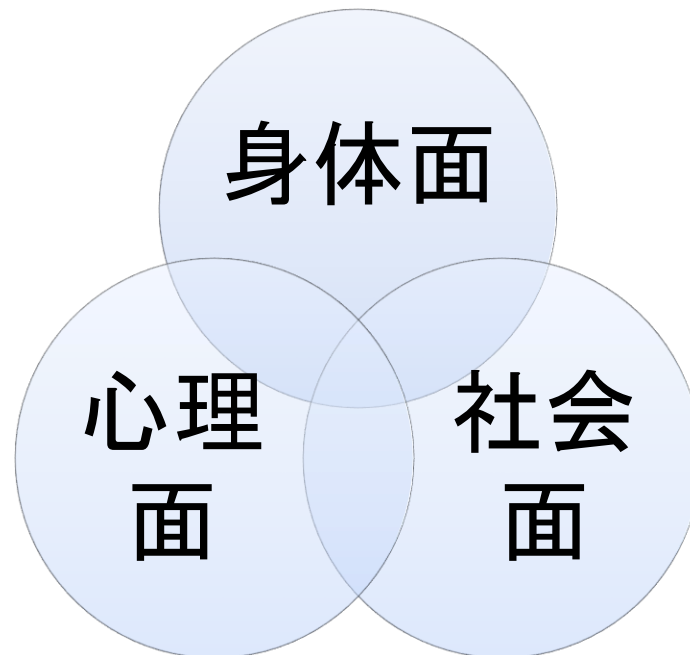
- 「できれば、普通に学校に行きたい」
- 「体調さえよければ学校に行けるのに、お腹や頭が痛くなる」
- 「クラスがイヤなわけじゃない、でも、自分の居場所はない」
- 「学校に近づくと緊張する。黒い塊のようにみえる。落ち着かない」
- 「少し休んでいたら授業が進んでいた」
- 「（学校からの）電話には出たくない。何を話していいかわからない」

3. アセスメントとチームによる教育相談の展開

- ◆ 子供自身が抱えている課題や問題
心身の疾患、発達障害、不安、性格、
身体の特徴等
- ◆ 子供と家庭をめぐる課題や問題
貧困、ヤングケアラー（家族の病理）、
両親の不和等
- ◆ 子供と学校をめぐる課題や問題
勉強、友人関係、教師との関係、部活、
いじめ、不適応等
- ◆ 子供と社会・文化をめぐる課題や問題
学校への価値観の変化、文化、情報
化・電子機器の進展等

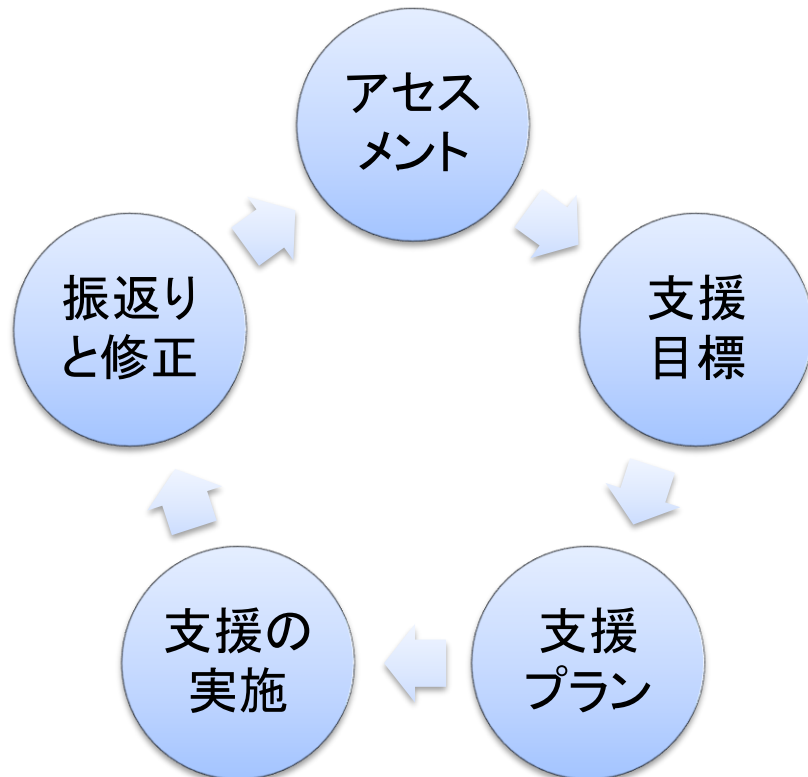
3. アセスメントとチームによる教育相談の展開

- ・ 児童生徒の情報に関して、伝文か直接確認した内容か、区別して整理する。
- ・ アセスメントの3つの視点



3. アセスメントとチームによる教育相談の展開

- ◆ニーズの把握と支援目標の決定
- ◆チーム会議において教職員間のゴールイメージを確認しつつ役割分担を決める。
- ◆担任教諭を支えるチーム作り



3. アセスメントとチームによる教育相談の展開

<保護者への助言・援助>

- ・「一緒に考えて行きましょう」
- ・保護者の不安、孤独、自信のなさを受け止める。
- ・保護者の意向を確認しながら、スクールカウンセラーや他機関を紹介する。
- ・子供が安心して過ごせる環境作りを一緒に考える。
- ・学校への具体的な協力（例：定期面談・連絡方法）を提案する。
- ・親の気持ち（心配）と子供の気持ちを混同して押し付けないよう助言する。

4. まとめ

- 前駆症状の時期（プレの状態）
 - ⇒心身症傾向の時期
 - ⇒苛立ち・反抗の時期
 - ⇒ひきこもりの時期
 - ⇒家庭内適応の時期
 - ⇒学校・社会復帰の時期
- その子供なりの自立を支援する。
「自分崩しと自分育て」
- 複数の選択肢を提供する。
- 他機関につないだ後も絆は断ち切らない。
- 担任を支え、家族を支え、支援者を孤立化させないチーム作りが重要。

2. まとめ～支援の基本姿勢～

- ☑スモールステップになっていますか。
- ☑本人が選択できるようになっていますか。
- ☑つねに他の選択肢を用意していますか。
- ☑本人のプライドを守っていますか。
- ☑次に繋がるような支援になっていますか。

